

バドミントンで学んだこと

田野小学校6年 坂本萌那

「最初からあきらめたらだめ！」サーブをする相手をじっと見ながら、私は心の中で自分にそう言い聞かせました。

バドミントンの九州大会。二勝した私たちは全国大会に行けるか行けないかを決める大事な試合で、鹿児島県の第一シードのペアと対戦しました。

「次の試合は一番強い人たちだけど、いけるよね。」

ペアを組む紗奈さんと、試合前にそんなことを話していました。全然緊張感はなく平氣でした。しかし、試合が近づくと寒気がしておなかも痛くなつてきました。

「どうしよう。めっちゃ緊張してきた。やばい。」

そう紗奈さんに言うと

「なんで今頃緊張すると？」

と言われました。

そして、いよいよ試合開始。まだ緊張している私に
「一本目をミスしないように。」

とアドバイスしてくれました。しかし、さすがに相手は強く、フェイントで何度もやられてしまいました。結果は1セット目が15対21、2セット目も14対21と六、七点差で負けてしました。

この九州大会に出場する前の県大会では、決勝の相手は、5年生の時の決勝でも対戦した人と当たりました。ペアは代わっていて、一年前よりもさらに強くなっていました。試合前は余裕があつたものの、いざ試合になると声が出ません。風邪で体調をくずしていたこともあって、全然練習の成果を出せなかつたのです。くやしくてくやしくてたまりませんでした。それだけに九州大会で

はベストの状態でい結果を残したかったのです。

「ぜったいにあきらめないぞ。」

いつも、そう思つて練習を続けてきました。

今年の5月、学校の運動会で、私は赤組の応援団長になりました。なつたからには

「絶対、成功させるぞ！」

と思いましたが、現実はそう甘くありません。応援の振り付けやかけ声が全然決まらずに、だんだん不安になつてきました。最大の難関は、それを下級生に教えることでした。

「このままじゃ成功しない。どうにかしないと・・・。」

昼休みも放課後も頑張つて練習しました。すると、みんなも覚えてくれて、笑顔が見られるようになつたのです。それが何よりも一番うれしく思いました。

総合優勝はできなかつたけれど、応援の部では勝つことができました。あきらめないでよかつた。成功してよかつた。同じリーダーや赤組のみんなに感謝しました。

私がバドミントン始めたのは二年生の頃です。友達にさそわれて入つたのですが、先輩たちはみんな優しくて、とてもいい雰囲気でした。それから、一週間に五日。木曜日は鎮西スポーツセンターに送つてもらつて、夜まで練習しています。たくさんのチームと試合をし、ダブルスのパターン練習も繰り返していました。嫌いだつた外でのランニングも、自分をきたえるためだと思つて走りました。時にはつらくて苦しい練習も、ずっとがんばつきました。

九州大会ではベスト8に終わりましたが、気合いは入つていたし、根気強くやれたと思っています。くやしさは残りましたが、それを次の大会に生かしていきたいです。

「苦しくてもあきらめない」私はバドミントンを続けて、その気持ちの大切さを学びました。中学校でもバドミントンを続けます。そして、先輩たちから教えてもらつた優しさをみんなに伝えて、前向きにチャレンジしていきたいです。